

# お出かけ下さい



●健康づくりとリフレッシュ  
機能を備えた健康増進施設  
「ホロルの湯」(城里町)

健康増進施設「ホロルの湯」は、バイブレーションや寝湯、サウナ、地元の天然石を使った広々とした露天風呂など各種機能を備えています。この自慢の薬湯は、血行促進や新陳代謝、保湿性、湯冷めしにくい点に優れ評判となっています。注がれる温泉は、アルカリ性単純温泉で、pH値9.0の強アルカリ酸で肌がツルツルになると女性にも好評です。水着着用のバーデゾーンには、25m×3コースの温水プールやバイブレーション、打たせ湯、ジェットバスなど、多様な機能があり、楽しみながら体を鍛えることができます。また、大広間やオープンテラス、1000インチの大型スクリーンのあるリラクゼーションルームや個室など休憩室も充実しているほか、食堂、レストランもあり湯上りのくつろぎも最高です。

営業時間 10時～21時  
料金 大人800円/小人400円(土日、祝日は大人1000円/小人500円) 17時～大人500円/小人300円)  
定休日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
問合せ 城里町下古内829-3

●酒沼自然公園(茨城町)  
酒沼のほとりの自然を丸ごとアウトドア施設にした公園です。34.5haの広さの園内には、テントサイト、オートキャンプ場、広場、約1.5kmの散策路があり、自然を楽しむことができます。

利用期間 4月25日～10月31日  
料金 オートキャンプ場1区画5000円/テント1張2000円/タープ1張1000円/バーベキュー1500円/バーベキューのみ1人100円  
※入園料200円(5歳～15歳100円)別途。

問合せ 茨城町役場商工観光課

029-292-1111

酒沼自然公園管理事務所

029-293-7441

●水戸市長杯第20回綱引大会

参加者募集

気の合った仲間を誘って綱引大会に参加してみませんか。市外にお住まいの方の参加もたくさんお待ちしております。

日時 5月22日午前9時～  
会場 青柳公園市民体育館  
構成・種別 1チーム選手8～10名(一般男子/一般女子/男女混合/小学5、6年生)、監督・トレーナー各1名

参加料 1チーム2000円  
申込み 5月2日までに水戸市スポーツ振興協会へ

問合せ 水戸市見川町2256  
029-243-0111

## 短歌

溢るる陽浴みつつ一日長宇  
振りて読み継ぐ夜の「蹴りた  
い背中」 薄井 ひろ  
視野さえぎり白ひと色に降る  
雪は災害多かりし年清むる  
ごとし 枝 不美  
その夫の在りにし日のごと白  
牡丹匂はせて友短歌詠みてを  
り 片見 和枝

兜つ年を拭ひ浄めむと雪ぞ降  
る身は謹みて新年迎ふ  
川上 千代子

冬の蠅短き命と上げた手をじ  
つと休めて行方目で追う  
弓野 のぶ

新しき年の始めに降る雪に良  
き事願ひ屠蘇吸みかわす  
島 愛子

封書裏に消えゆく町名を認め  
てポストに入れたり音をこそ  
聴け 多田 志保子

受話器より聞こゆる声がはず  
みおり大学院が受かりしと野  
孫は 坪井 きよ子

由緒ある町の名や景観を守り  
来し村の名も消えて合併すむ  
萩谷 登喜子

水面にうぶ毛散らして白鳥の  
初春を待つ親子の戯れ  
和知 美智子

智積院の朝清やかに冷氣満つ  
壇信徒われら勤行に加ふ  
富田 佐智子

なにやらむとまどい迷う筆持  
ちて「城」という字を三度書く  
とき 秋葉 主計

雛壇を飾りし前で曾孫達が燥  
ぐ姿に心ほころぶ  
阿良山 ウメノ

時折り竹の折れたる音がして  
雪の積もりし枕辺に思う  
岩下 通子

人生の辛苦を共に八十路過ぎ  
痴呆のかげの夫に涙す  
岩下 美知野

さざめ雪音もかすかに降り止  
まず桂の里は雪明かりして  
高井 良水

## 文芸しるさと

### 俳句

春雪の明るさ家に父と母  
飯田 勇一  
点滴をもて毒うすめ鬼は外  
一木 雄一郎  
筆先を幾つも持てり猫柳  
山崎 正行  
三町歩ほどの裏山山椒の芽  
中村 草介  
もくもくと土龍の起こす春の土  
杉木 輝夫  
奥宮の静けさ椿落ちにけり  
和田 範子  
湯の里に湯の宿一つつくしんば  
高橋 芦江  
菖蒲の芽小さき雨粒光りけり  
鯉 淵 寿美恵  
春の旅鯨塩吹き頭出す  
飯村 愛子  
木道のしつとりと濡れ猫柳  
飯村 昭子  
陽炎のきらりと光り鎌の先  
いそべきよ  
駅を出てはつと一息花馬酔木  
田所 厚子  
路の臺摺むには小さし團ひせり  
阿久津 あい子  
寄せ書きの布は空色鳥雲に  
竹内 幸子  
老梅に漲る一枝ありにけり  
今瀬 多代美  
やはらかに良く眠る嬰雛飾る  
桜井 眞子  
母の辺へわづかに届き春日差し  
安藤 藤沙都子  
梅の花鳥たちと雪落ちにけり  
瀬谷 博子  
白梅や巨大花瓶の陶芸の業  
仲田 こう  
父なるわ遠くにおいて春彼岸  
市川 義子  
ヒメマスの稚魚放流に春來たり  
山本 隆莊  
牛遅々と春光畑にあふれけり  
秋葉 久子